

2019年度 日本曹達グループ 株式会社日曹建設 CSR活動方針と目標(2/2)

	領域	活動方針(考え方)	項目	目標	行動目標	KPI
企業価値を守るCSR	マネジメントシステム ^{RC} および組織統治 ^{CSR}	「法令を遵守した健全で透明な企業活動」を行うためにRC活動倫理を基本にRCコードに基づいたPDCAサイクルとして、目標設定・改善・定期的見直しを継続的に推進します。 CSRでいう、7つの社会的責任の原則(説明責任、透明性、倫理的な行動、ステークホルダーの利害の尊重、法の支配の尊重、国際行動規範の尊重、人権の尊重)に則り、事業活動を行います。	(1)活動	適正な運用	PDCAサイクルによる継続的改善。	各活動のKPI
	環境保全 ^{RC} ・CSR	二酸化炭素排出量の削減、廃棄物の削減・建設廃棄物リサイクル率の向上、総排水量の削減、グリーン購入推進とエコ設備配慮、環境配慮を目的とした施工の推進に努めると共に環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。	(1)環境異常	発生件数ゼロ	環境基準の周知徹底。RCパトロール強化。	(1)法令違反件数
			(2)エネルギー ①CO ₂ 排出量 ②自動車燃費	①基準年度比1%削減* ②基準年度比1%向上*	①排出量削減取組の周知徹底、節約徹底。RCパトロールの強化。 ②エコドライブの周知徹底、燃料の節約徹底。	①排出量 ②燃費
			(3)廃棄物	リサイクル率97%* ¹	ゴミ分別の周知徹底、節約徹底を図る。RCパトロールの強化。	リサイクル率
			(4)総排水量 ①本社排水量 ②現場排水量	①基準年度比1%削減* ②基準年度比1%削減* ¹	①節水の周知徹底、節約徹底を図る。 ②節水の周知徹底、節約徹底を図る。RCパトロールの強化。	①使用量 ②使用量
	保安防災 ^{RC} ・BCP	重大な設備災害を防止し安全で安定した、設計・施工管理を推進します。BCP(事業継続計画)を確立し継続的に改善を行います。	(1)重大災害	無災害	重大災害ゼロの達成。BCPの周知徹底を図る。RCパトロールの強化。	(1)事故件数
			(2)BCP(事業継続計画)維持・改善	PDCAサイクルによるBCPの維持・改善	緊急事態訓練の実施。	(2)BCP見直し状況
	労働安全衛生 ^{RC}	無災害で元気に働く喜びを感じる事のできる職場づくりを推進します。	(1)労働災害 休業・不休業	無災害	安全作業基準の周知徹底。RCパトロール強化。安全衛生教育の実施。過去の災害事例の活用。安全施工サイクル活動の充実。	(1)労働災害件数
			(2)健康増進	私傷病発生件数と休業延べ日数ゼロの達成。	定期健康診断のフォローアップ。健康教育の実施。受動喫煙対策順守に向けた取り組み強化。* ²	(2)私傷病発生件数 休業延べ日数
	品質保証 ^{RC}	設計・施工・工事管理において、品質苦情・クレーム・瑕疵工事ゼロを目指し、顧客満足に貢献します。	(1)品質苦情・クレーム・瑕疵工事	発生件数ゼロ	品質教育の実施。月々の品質マネジメントの取組み。社内最終検査の強化。	(1)品質苦情・クレーム・瑕疵工事件数
(2)顧客の財産保護と安全・安心の確保			顧客満足度100%	品質教育の実施。お客様の声アンケート実施。部門会議、着工前会議の実施。	(2)顧客満足度	
製品安全 ^{RC}	設計・施工・工事管理において、耐震性を考慮し、グリーン購入に努め、シックハウス等のないように努力します。	(1)顧客の保護	顧客満足度100%	お客様の声アンケート実施。顧客訪問、定期巡回を実施し顧客とのコミュニケーションを強化。住宅等顧客の日常活動における安全の確保。	(1)顧客満足度	
社会活動	お客様とともに(消費者課題 ^{CSR})	課題の共通認識により顧客満足に貢献します。	(1)消費者課題	課題の共通認識	施工物件の本質、安全性の確認	(1)課題の把握状況
	従業員とともに(人権 ^{CSR} ・労働慣行 ^{CSR})	人権を尊重し、その重要性及び普遍性の両方を認識し行動します。社会的に責任のある労働慣行は、社会の正義及び平安に必要不可欠であり、法の支配の尊重及び社会に存在する公正意識に及ぼすことを認識して行動します。	(1)多様性の受容	女性、高齢者の雇用費率の向上	女性、高齢者が働きやすい職場環境づくりの推進。	(1)多様性の数値
			(2)働きがいと誇りが持てる職場づくり	従業員の職場満足度の把握と向上	上下間コミュニケーション(相互の情報伝達)の充実、仕事のやりがい・チャレンジ意欲の向上を図る。	(2)部門会議情報伝達状況
	取引先とともに(公正な事業慣行)	取引先との対話に取り組み、公正・公平で健全な取引を推進します。	(1)取引先	公正で公平な取引	購入先を選定する場合には、品質、価格、納期、技術開発力、安定供給等の諸条件を公平に比較し評価する。	(1)行動規範順守状況
	株主とともに	正確でわかりやすく、公平かつタイムリーな情報開示に取り組みます。	(1)株主	建設的な対話、公平かつタイムリーな情報開示	株主との対話	(1)対話状況
地域社会とともに(コミュニティ参画および開発・社会との対話 ^{RC})			(1)地域懇談会・コミュニティ参画	地域懇談会・関わり回数維持	地域行事への参画、地域ボランティア活動の継続	(1)対話・関わり件数
			(2)法的およびその他の要求事項	逸脱件数ゼロ	改正法の周知、法的要求事項順守評価表の確認	(2)逸脱状況
(3)ステークホルダーエンゲージメントの積極的実施	年1回	ステークホルダーエンゲージメントを積極的に実施し、得られた評価をCSR活動の改善に活かす。	(3)エンゲージメントの件数と内容			
ガバナンス	コーポレート・ガバナンス	法律の順守と健全で透明性の高い企業経営を行います。	(1)体制	コーポレートガバナンス体制の維持改善	法律の順守と健全で透明性の高い企業経営を行う。	(1)ガバナンス体制
	コンプライアンス	「日本曹達グループ行動規範」の周知により、法令順守・企業倫理にもとづいた企業行動を徹底します。	(1)法令順守	法令順守体制、教育の継続	「日曹グループ行動規範」を定期的に周知教育し、アンケートを行う。	(1)法令違反状況

2019年 4月 1日

株式会社日曹建設 CSR推進委員長 代表取締役社長 渡邊 俊幸

注) 本活動方針と目標は、2019年度日本曹達グループCSR活動方針と目標を基本として当社の業態の違いに応じて、アレンジしたものである。

2019年度変更理由

*1 2019年度からの中期計画目標値は、2018年度を基準年度として設定する。

*2 健康増進法の一部を改正する法律による受動喫煙対策の順守に向けた取り組みに対応するため行動目標に追加する。